シェザールと神々

シェザールと神々

帝国図書館
古代神学・古数神秘学芸員補
フォースティラス・ジュニアス　著

シェザールは誤解されがちな存在であるが、シロディールでは信仰を勝ち得ている。彼や、他の多くの神々は、帝都における数々の大規模な宗派の崇拝の対象となっている。シェザールは特に西部コロヴィア地方で崇拝されており、当地ではショールという名で呼ばれている。西部の王たちの多くが民族意識的にも宗教的にもノルドであるためである。

シェザールと他の神々との関係にはわからない部分が多い（彼はよく神々の「失われた兄弟」と呼ばれる）。その経歴はシロディールの「奴隷の女王」と呼ばれた聖アレッシアが帝都シロディールの原型を築いた時代から始まる。ハートランドにおけるシロディールとノルドたちの歴史の初期、シェザールは人間を代表してアイレイド（ハートランドの支配者エルフ）と戦った。その後、なぜかシェザールは歴史の舞台から消え（他の土地の人間を助けに行ったと考えられている）、彼の統率力を失った人間たちはアイレイドによって征服され、彼らの奴隷と化した。

奴隷制度は何世代にもわたって続いた。そのあいだ、互いに接触のなかった人間たちは主人であるエルフたちの神々を崇めるようになり、また彼らは支配者エルフの宗教的な習慣を彼ら自身の信仰に取り入れたため、人間とエルフの宗教は混ざり合い、区別があいまいになっていった。

第一紀242年、アレッシアと彼女の半神の恋人である「カイネの息吹」モーハス、そして悪名高いペリナル・ホワイトストレークに率いられ、シロディールの人間たちは反乱を起こした。スカイリムがこの南の奴隷の女王に味方の兵を送って協力したため、反乱は成功した。アイレイドの覇権は瞬く間に滅ぼされた。それからまもなくして、アレッシアの勢力は白金の塔を占領し、アレッシア自ら最初のシロディール女帝となった。そのことはまた、彼女がアカトシュ信仰の女教皇となったことも意味した。

アカトシュはアルドメリの神であり、アレッシアの治める人々はまだエルフの神々への信仰を捨てようとしていなかった。このことは、彼女に政治的な問題をもたらした。彼女はノルドの人々を支配下に置いておきたかったが、彼らは（当時は）エルフの宗教を拒絶していたのである。だからといって、人々に今度はノルドの宗教を強要することはさらなる革命をまねく恐れがあり、避けたかった。そのため、宗教的寛容が推進され、女皇アレッシアは新たな信仰の対象を設けた。八大神である。八大神は、ノルドとアルドメリそれぞれの宗教の綿密な調査に基づく適切な融合であった。

結果として、シェザールについても変更が加えられなくてはならなかった。彼はもはや、アルドメリと敵対する血に飢えた武将ではいられなかったのである。しかし彼はまた、消え去ることもできなかった。彼を信仰することを否定すれば、ノルドの人々はアレッシアの支配圏から去ってしまっていたであろう。最終的に、彼は「人間の全ての営みを助ける御霊」ということになった。これはショールの特徴を薄め、軽く偽装したようなものであったが、ノルドたちは満足していた。

なぜタイバー・セプティムがアルドメリの領土を攻める際に本来のシェザールを「復活」させなかったのかについては、憶測の域を出ないが、アレッシアたちの悪行(ドラゴンの突破、正道戦争、ゲルナンブリア・ムーアでの敗北)の記憶は、帝国の王座をめぐる戦いに不利に働くと考えられたからであろう。

シェザールと神々

FormId	skyrim.esm:01AF93
Owning plugin	skyrim.esm
Local FormId	01AF93
Editor ID	Book3ValuableShezarr
Inventory image	(none)
Menu art	HighPolyBasicBook05
Value (gold)	11
Type	Book or tome
Weight	1
Can be taken	Yes
Teaches	(none)
Inventory description	(none)
Keywords	VendorItemBook
Locations	276
Leveled lists	10
Scripts	0

© Bethesda Softworks LLC and the authors of the mods in the load order.
Exported and generated with SkyrimSourceExporter.